

マーケットレポート

FOMCは4年半ぶりの利下げを決定

～利下げ幅は通常の2倍の0.50%～

◆議長は連続的な大幅利下げには慎重姿勢

FRB（米連邦準備理事会）は9月17～18日にFOMC（米連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF金利（フェデラル・ファンド金利）を4.75～5.00%に引き下げること決めました。利下げは2020年3月以来、4年半ぶりです。FRBは新型コロナの感染拡大による供給制約等を背景にした記録的なインフレを抑え込むために異例の利上げを続け、その後も高金利を維持してきました。インフレとの闘いが一段落し、米国の金融政策は転換点を迎えたと言えるでしょう。

今回の利下げ幅は通常の2倍の0.50%でした。記者会見で大幅利下げの理由を問われたパウエル議長は、労働市場の減速に言及しつつ「遅れをとらないという我々の決意の表れだと思う」と語りました。他方、「誰も今回の利下げを新しいペースだとは見ていない」とも述べて、連続的な大幅利下げには慎重な姿勢を示しました。

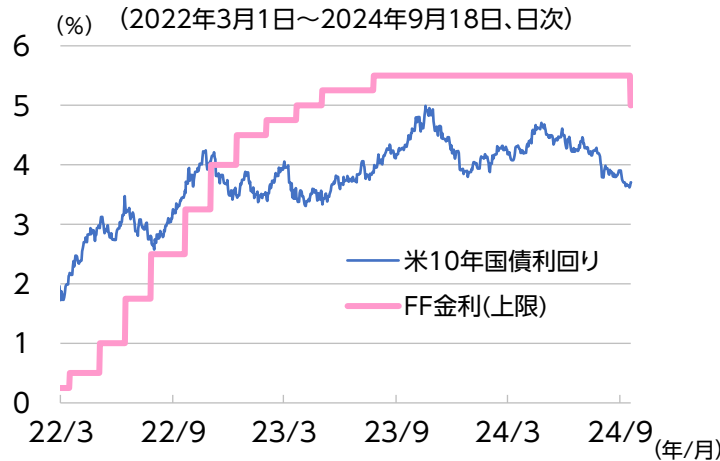
注目されたFF金利見通しは、2024年末の中央値が4.4%となりました。通常の幅（0.25%）で、年内にあと2回分の利下げが示唆された形です。

◆市場の反応、今後のポイント

18日の米国株式市場では、主要3指数が下落して終了しました。事前には利下げ幅が0.25%か0.50%かを巡って見方が分かれていたため、0.50%の利下げが決まった直後は上昇しました。ただ、FRB議長の会見などを通じて、追加利下げにそれほど積極的ではないとの見方が広がり、終盤にかけて下落に転じました。為替市場でも、一時的に1ドル＝140.40円台を付けましたが、ドル売りは続かずに142円台まで値を戻しました。

今回のFOMC前の市場観測は、後退していた大幅利下げの見方が、直前の一部メディア報道によって改めて強まるという、やや異例の展開となりました。ボウマン理事が0.25%の利下げを主張して反対票を投じており、FOMCメンバー内でも意見が分かれていたようです。今回の決定に至った理由について、FOMCメンバーからの今後の説明が注目されそうです。

米10年国債利回りとFF金利誘導目標（上限）



FOMCの経済・物価・政策金利見通し（中央値）

実質GDP	2024年	2025年	2026年
今回(9月)	+2.0%	+2.0%	+2.0%
前回(6月)	+2.1%	+2.0%	+2.0%

コアPCEデフレーター	2024年	2025年	2026年
今回(9月)	+2.6%	+2.2%	+2.0%
前回(6月)	+2.8%	+2.3%	+2.0%

FF金利	2024年	2025年	2026年
今回(9月)	+4.4%	+3.4%	+2.9%
前回(6月)	+5.1%	+4.1%	+3.1%

海外金融市場の動向

	9月18日 終値	前日比	
		変化幅	騰落率 (%)
NYダウ (米)	41,503.10	▲103.08	▲0.25
S&P500 (米)	5,618.26	▲16.32	▲0.29
ナスダック総合 (米)	17,573.30	▲54.76	▲0.31
FTSE100 (英)	8,253.68	▲56.18	▲0.68
DAX (ドイツ)	18,711.49	▲14.59	▲0.08
米国10年国債利回り	3.70%	0.06	-
米ドル/円 (円) ※	142.29	▲0.12	▲0.08
WTI原油先物	70.91	▲0.28	▲0.39

※米国市場の終値

(信頼できると判断したデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成)

【投資に関する留意事項】

◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債など値動きのある有価証券等を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。したがってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

◎投資信託に係る費用について

投資信託にご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。

1. 購入時に直接ご負担いただく費用 (1) 購入時手数料 上限 3.85%(税込) (2) 信託財産留保額 上限 0.1%
2. 換金時に直接ご負担いただく費用 (1) 信託財産留保額 上限 0.5%
3. 保有期間中に間接的にご負担いただく費用 (1) 信託報酬 上限年率 2.09%(税込、概算)

※ファンド・オブ・ファンズ形式の場合は、一部を除き、投資信託が投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。

※一部の投資信託および投資信託証券には運用実績等に基づき計算される成功報酬額が別途かかる場合があります。この場合、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合がありますが、成功報酬額は運用実績等により変動するため、上限額等を事前に表示することができません。

4. その他費用 (1) 上記以外に投資信託の保有期間等に応じてご負担いただく費用(*)があります。これらの費用は、運用状況等により変動するため、料率、上限額等を事前に表示することができません。

(*) 監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、投資信託証券の解約に伴う信託財産留保額、および投資信託が実質的に投資対象とする仕組み債券の価格に反映される費用等

上記の費用の合計額については、お客様が投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に表示することができません。

詳細は投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友トラスト・アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率(作成日現在)を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧ください。

◆設定・運用は



商 号 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。